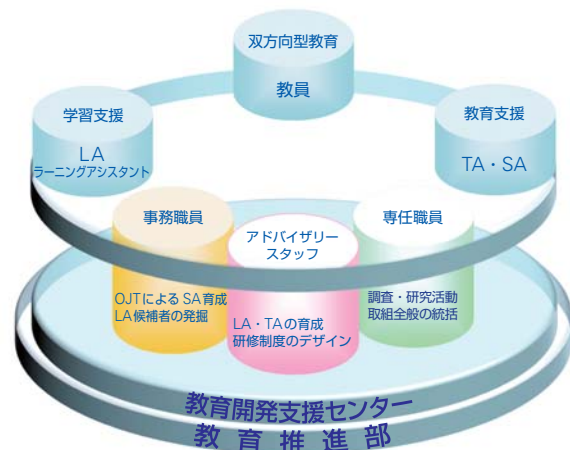


文部科学省プログラム

●平成21年度『大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム』に採択 三者協働型アクティブ・ラーニングの展開 —学生の「考動力」育成を目指して—

三者協働体制・概念図



●アクティブ・ラーニングを支援する 学部学生LAを育成

関西大学では自ら考え行動する力を「考動力」とし、その育成を促す教育方法に取り組んでいる。この「考動力」の獲得には学生の主体的な学習が不可欠であり、具体的な姿を学生自身がイメージできるよう、そのラーニング・モデルを身近な学部学生に求めた。これがLA(ラーニング・アシスタント)であり、学習の支援を担うファシリテーターとして、また既修者自らの成長の軌跡を伝えるメッセンジャーとしての育成を図る。

●教育改善・FD活動のパラダイムシフトを目指す

2008年に開設した初年次学生向け*1PBL型科目「スタディスキルを身につける」は、ノートテイキングや情報検索、レポート作成などの基礎的なスキルから、研究発表(プレゼンテーション・スキル)までを習得するための少人数ゼミ形式の全学共通教育の授業だ。LA育成の発想の原点は、このPBL型授業で教員支援を行うSA(チュードント・アシスタント)に志願する既修者の増加にある。このことは、学生が自らの受講経験を振り返り、能動的学習の価値に気づき、伝承する場を求めていることの顕れと言える。この要求に応えつつ、新たな学習の萌芽を育て、その裾野を広げるためには、学生の問題発見能力等の育成に軸足を置いた教育を展開し、学習支援システムを再構築する必要がある。教師の教育法を主とする従来の*2FD活動、すなわち“How to Teach”から、今後は“How to Learn”へとパラダイムシフトしなければならない。

●大学院学生スタッフを中核とした 協働体制の充実を図る

本取組では、PBL型科目の既修者から初年次学生の学習支援を担う候補者を発掘し、LAとして育成する。その研修制度の企画開発等を主に担当するのが教育学専攻の博士課程在籍者を中心とするAS(アドバイザー・スタッフ)だ。また、アクティブ・ラーニングの進展に向けて教育方法にも改良が求められ、それを授業現場でアシストするTA(ティーチング・アシスタント)の育成も必要となる。それらを踏まえ、LAが学生の学習を、TAとSAが教員の授業をそれぞれ支援するシステムを構築するために、ASを中核とした協働体制を組織する。

また、職員はOJTを通じてSAの育成やLA候補者の発掘に尽力するとともに、全学的な視野に立って協働を導く役割を担い、教員はASとの相互研修を担う。教育開発支援センターでは、この三者によるチームワークを基盤とする「TSネットワーク・プロジェクト」を立ち上げ、双方向型学習の定着と学生の知的成長を促し、「考動力」の育成を実現する。

取組担当者：三浦真琴(教育推進部教授)

*1PBL…問題解決型学習(Project Based Learning)の略称。
*2FD…教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称(Faculty Development)の略称。

教育開発支援センターをOPENしました！



本取組は教員・職員・学生が協働し、アクティブ・ラーニングの進展と教育改善・FD活動のパラダイムシフトを目指しています。

この三者が協働するオフィスが、教育開発支援センター(センター長：池田勝彦 化学生命工学部教授)として第2学舎に誕生しました。

本センターは、本学のFD活動の拠点として、高等教育に関するさまざまな情報を発信し、アクティブ・ラーニングを推進するなど先生方や学生諸君が気軽に立ち寄れる教育支援のコンビニ窓口を目指します。

なお、開室時間は、月曜日～金曜日の9時から17時までです。詳細は、次のアドレスにアクセスください。

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

■社会貢献・連携事業／産官学・地域連携

チュラロンコン大学との学術協力及び 交流に関する協定締結



関西大学とチュラロンコン大学は、2007年3月に理工系の大学院生交換協定を締結し交流を続けているが、この度、大学全体での学術協力及び国際交流計画に基づき相互協力を行うことで合意に達し、10月5日に調印式を行った。今後は、それぞれの大学における研究・教育の推進及び研究者・学生、学術情報・資料の交換などを行う。

チュラロンコン大学は1917年に創立されたタイ最古の大学であり、タマサート大学と並ぶタイの最高学府。

法政大学と合同シンポジウムを開催

関西大学と法政大学は、9月26日千里山キャンパスにおいて第1回学生支援GP連続シンポジウムを合同で開催した。テーマは「ピア・サポートの取り組みと新たな課題」。平成19年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に採択された取り組みの一層の充実を図るべく、両大学におけるピア・サポートのこれまでの経緯や現状、今後のあり方などについて、両校の教職員や学生(ピア・サポーター)らが活発に議論を交わした。各校の取り組みは以下のとおり。

■関西大学：「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」

—関西大学で育む21世紀型学生気質—

■法政大学：「『学生の力』を活かした学生支援体制の構築」

—クラス・ゼミ(正課教育)、クラブ・サークル(正課外教育)に次ぐ『第3のコミュニティ』づくり—



全国社会保険労務士会と協定を締結

関西大学と全国社会保険労務士会連合会近畿地域協議会は、大学院への特別推薦入学試験に関する協定を結ぶことで合意に達し、9月14日、河田梯一前学長らが出席して調印式を行った。労働、社会保険関係の法令に精通する社会保険労務士の専門性を高めることを目的とし、平成22年度から、法学、経済学、商学の各研究科博士課程前期課程に、同協議会から推薦を受けた計20人程度を受け入れる。

社会安全学部、大学院社会安全研究科が同時認可

関西大学は文部科学省に「社会安全学部 安全マネジメント学科」と「大学院 社会安全研究科 防災・減災専攻」の設置認可申請を行い、10月30日付で認可書を受領した。

「社会安全学部」は文理融合型カリキュラムを配し、「社会災害マネジメントコース」と「自然災害マネジメントコース」に分かれ、安全・安心をデザインできる社会貢献型人材の育成をめざす。「大学院 社会安全研究科」は主に研究実績のある自然災害問題領域を取り扱い、学部との同時開設により研究教育面でのプラス効果に期待する。2010年4月開設で、場所はいずれも高槻ミュージックキャンパス。

関西大学初等部入学試験を実施

10月5日から11日にかけて、関西大学初等部が新1年生の入学試験を実施した。男女計60人の募集定員に対し約4倍の志願者があり、親子面接・行動観察・ペーパーテストによる選考を経て、10月13日、合格発表が行われた。発表当日は、田中明文校長予定者から合格者全員に合格通知書が手渡され、午後からの合格者説明会には全員が出席。初等部教員の話に熱心に耳を傾けた。

12月には、関西大学初等部新2・3年生編入学試験を予定。

「日本の美とところ」をテーマに講演会を開催

関西大学文化フォーラムが10月3日、東京・有楽町のよみうりホールで開催された。「日本の美とところ」をテーマに、宮内庁陵墓課首席研究官の徳田誠志氏が「前方後円墳にみる日本文化」、画家の田村能里子氏が「絵の道は出会いの旅」、作家の辻原登氏が「歴史と冒険のシンクロニシティ」と題して講演。パネルディスカッションも行われ、約380人が参加した。

「日本の美とところ」講演会のポスター▶

